

技術情報

J A全農やまぐち

TAC・営農推進課

(083-988-0681)

平成25年8月15日 発行

第 179号

コブノメイガの防除対策

8月15日付けで病害虫防除所から技術資料が発表され、コブノメイガの発生が「**やや多**」の予想となっています。

つきましては、コブノメイガの防除が的確に実施されますよう、下記及び「発生予察技術資料第5号」を参考に、ご指導をお願いします。

記

1 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域（8月25日以降に出穂するほ場）
- (2) **発生量 やや多**

2 防除対策

- (1) 防除時期
 - ・ 粒剤 : 8月19日～24日頃（成虫最盛期）
 - ・ 粉剤、液剤 : 8月26日～31日頃（若齢幼虫最盛期）
- (2) 防除の目安
払い出しで成虫が5頭以上/m²以上
- (2) 防除薬剤
表のとおり

3 防除上の留意事項

- (1) 本年は例年に比べ発生時期が遅いため、8月25日以降に出穂するイネに成虫が集中すると思われるので、発生状況を確認する。
- (2) 防除適期が比較的狭いので防除時期が遅れないよう注意する。

主要殺虫剤(平成25年農作物病害虫・雑草防除指導基準)

粉剤

系統	コ 剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
IGR	18	ロムダン粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	テブフェノジド2回以内	—
ビレスロイト*	3A	MR. ジョーカー粉剤DL (普)(A)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	速効性だが、浸透 移行性はなく、薬剤 が虫体にかからない いと効果が劣る。
		トレボン粉剤DL(普)(B)	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	
フェルピラ ゾールビレス ロイト*	2B 3A	キラップジョーカー粉剤DL (普)(A,A)	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処 理は1回以内)、シラフルオフェン2回以内	—
ビレスロイト*、 ネライストキン ン	3A 14	パダントレボン粉剤DL (普)(B,Bs)	3~4kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内、カルタップ6回以 内(但し、種もみ浸漬は1回以内、床土への混 和及び育苗箱への処理及び側条施用は合計 1回以内)	—

液剤

系統	コ 剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
IGR	18	ロムダンゾル(普)(A)	1000倍、100~ 150リットル/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	テブフェノジド2回以内	—
ビレスロイト*	3A	MR. ジョーカーEW(普)(A)	2000倍、60~150 リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	シラフルオフェン2回以内	—
ビレスロイト*	3A	トレボン乳剤(普)(B)	1000倍、60~150 リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内	—
ビレスロイト*、 ネオニコチノイ ド	3A 4A	トレボンスターフロアブル (普)(B,A)	1000倍、60~150 リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	エトフェンブロックス3回以内、ジノテフラン4回 以内(但し、育苗箱への処理及び側条施用は 合計1回以内、本田での散布、空中散布、無 人ヘリ散布は合計3回以内)	—
フェルピラ ゾールビレス ロイト*	2B 3A	キラップジョーカーフロアブ ル(普)(A,A)	1000倍、60~ 200リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	エチプロール2回以内(但し、移植時までの処 理は1回以内)、シラフルオフェン2回以内	—

粒剤

系統	コ 剤	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
ネライストキン ン、カーバメー ト	14 1A	パダンバッサ粒剤 (劇)(Bs,Bs)	4kg/10a	収穫30日前まで	5回以内	手、又は 散粒機で 田面に均 一に散粒 する。	カルタップ6回以内(但し、種もみ浸漬は1回以 内、床土への混和及び育苗箱への処理及び 側条施用は合計1回以内)、BPMC5回以内	—

平成 25 年度農作物病虫害発生予察技術資料第 5 号

平成 25 年(2013 年)8 月 15 日
山口県病虫害防除所

水稻のコブノメイガの発生状況と防除対策について

このことについて、8 月 25 日以降に出穂するヒノヒカリ等中生種で今後、発生がやや多くなることが予想されます。

については、発生状況の確認および防除指導の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) マレーズトラップの成虫捕獲虫数(山口市:6 月 1 日~8 月 13 日)は 243 頭(平年 190 頭)で平年に比べやや多く(図 1)、8 月に入り増加傾向にある(図 2)。
- (2) 8 月 6~8 日の巡回調査では、発生ほ場率 62.8%(平年 58.8%)、被害株率 12.0%(平年 18.6%)、20 回当たり成虫払い出し頭数は 1.4 頭(平年 9.2 頭)で平年並みであった。また、5 月中旬までに田植えをしたほ場に比べ、5 月下旬以降に田植えをしたほ場で発生が多い傾向があった。

2 今後の予想

- (1) 発生地域 県内全域 (8 月 25 日以降に出穂するほ場)
- (2) 発生量 やや多
- (3) 今後の予想 気象予報では今後も引き続き高温が予想されているため、発生の増加が予想される。さらに、上述(1)のほ場では成虫が集中するため、8 月下旬以降、幼虫による止葉や第 2 葉の被害が発生すると推測される。

3 防除対策

- (1) 防除適期(図 3)
粒剤 8 月 19 日~24 日頃(成虫最盛期)
粉剤、液剤 8 月 26 日~31 日頃(若令幼虫最盛期)
- (2) 防除の目安
払い出しで成虫が 5 頭/m²以上

4 防除上注意すべき事項

- (1) 葉色の濃いほ場は被害を受けやすいので、ほ場の成虫発生量をよく確認する。
- (2) 出穂後のイネには産卵が少ないため、出穂したほ場ではコブノメイガ対象の防除は必要ない。
- (3) 防除にあたっては、「平成 25 年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準」を参照し、使用時期等の農薬使用基準を遵守する(山口県病虫害防除所ホームページ参照)。
- (4) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。

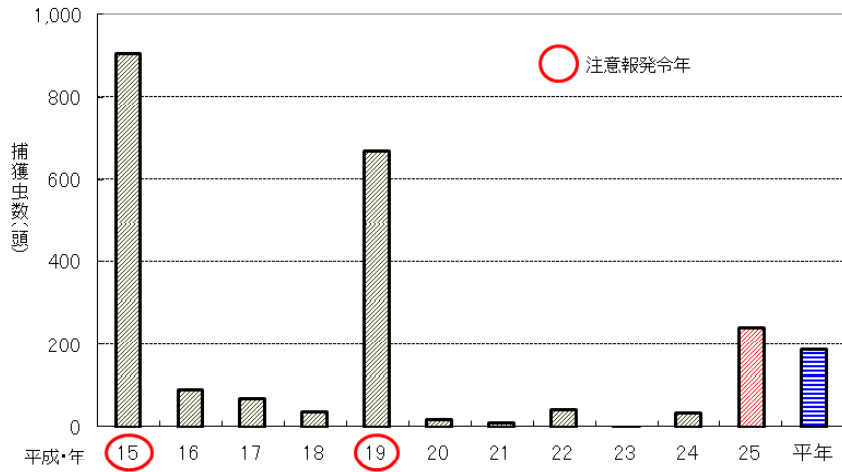


図1 マレーズトラップによる成虫捕獲虫数（山口市：6月1日～8月13日）の比較

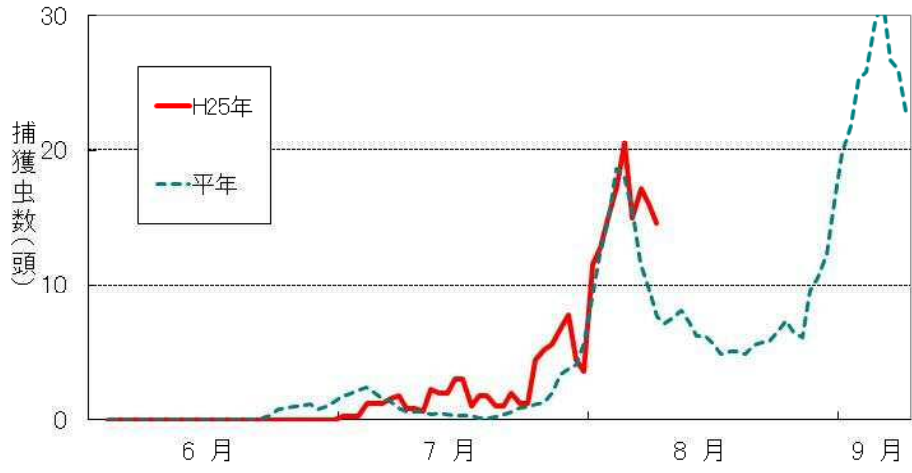


図2 本年（H25年）および平年のマレーズトラップによる成虫捕獲虫数の推移

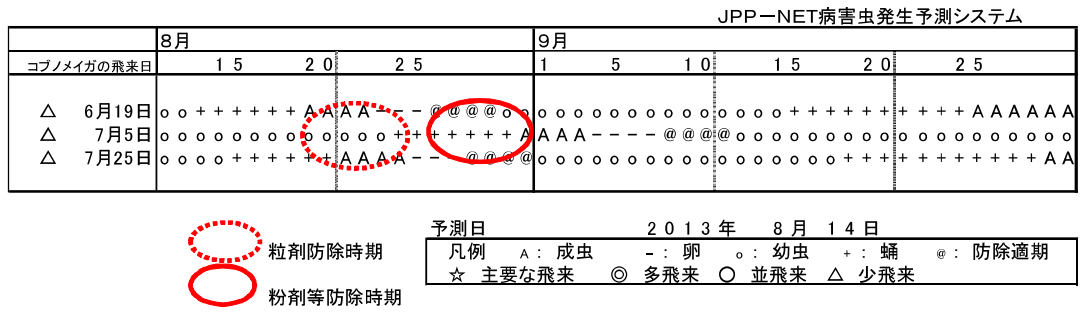


図3 コブノメイガの防除適期予測図

